

# 島根県ソフトテニス連盟

## —— これまでのあゆみ

ソフトテニス(軟式庭球)を通して社会貢献するため、昭和30年に島根県軟式庭球連盟として発足した。国際普及を目指した競技名称変更に合わせて、平成4年に島根県ソフトテニス連盟と改称し、大会開催や各種事業実施を通じてソフトテニスの普及・振興を図っている。

くにびき国体(昭和57年)、スポレク(平成4年)、ねんりんピック(平成7年)、2度のインターハイ(平成7年、平成16年)のほか、日本連盟主催の各種全国大会を主管することを契機に競技力向上にも取り組み、全国レベルで活躍する小・中・高生選手も多数輩出している。国際大会に日本代表として出場、入賞する選手も複数名出ており、令和5年の第19回アジア競技大会では本県出身の内田理久選手が男子国別対抗金メダル獲得に貢献した。



平成24年全日本小学生大会案内看板

## —— 現在の状況

県連盟のソフトテニス活動は、各地域(隠岐・安来・松江・出雲・雲南・横田・大田・邑南・江津・浜田・益田)での大会実施を中心に、小学生委員会・中学校部・高体連・レディース連盟などの団体活動とも相互に連携して取



平成29年愛媛国体表彰

り組んでいる。

松江市が会場となる2030年島根かみあり国スポの開催に向けて、各種別の目標達成そして競技別総合優勝を目指し、選手強化や競技環境の整備、組織の充実など準備を進めている。ここまでの歩みの中で島根のソフトテニスが国体の競技得点を獲得したのは、昭和57年のくにびき国体、平成28年の岩手国体、平成29年の愛媛国体の3回、いずれも少年男子の活躍によるものである。2030年の目標は高く、厳しい挑戦となるが、選手・スタッフ・役員など関係者が一丸となってこれを乗り越えたとき、その先に続く道が開けるものと期待している。

## —— これから

登録会員は、小中高・社会人を含め2410人(令和4年度末)であり、少子化の影響もあり年々減少している。ソフトテニスは高い競技性を持つスポーツであると同時に、世代を問わず楽しく長く続けられるスポーツでもある。今はソフトテニスの大会を一般の方が見に来ることはほとんどないが、これからは見ても楽しいソフトテニスとしての演出がソフトテニスの発展に欠かせないものになってくる。いつでも取材され、報道されるような工夫をしていく必要がある。そして、する・みる島根のソフトテニスを支える基盤として、各地域・団体・県連盟の役員・スタッフとして協力してくれる人材の育成と確保がとても大切である。競技団体を持続可能なものとするためにも、いつか支える側となってくれるソフトテニス登録会員=愛好者を増やす努力をしていきたい。



平成28年中国選手権(松江)開会式